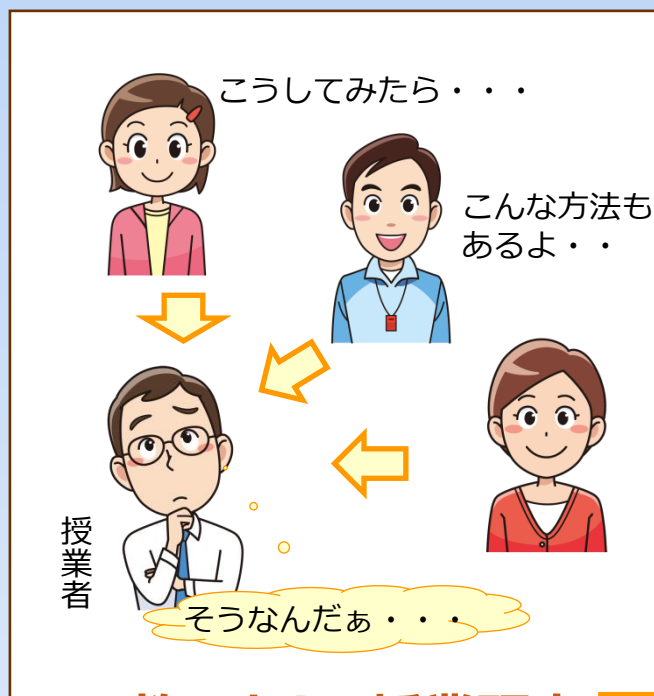


富附特支型研修モデル「学びあいの場」

“自分らしい授業づくりを支える学びあい”

“自分らしい授業づくりを支える学びあい”は、教えあうのではなく聴きあうことを通じて、様々な視点を踏まえて自分自身で気づき、発見するといった、豊かで主体的な学びを目指します。

同僚が子供と同じ目線に立ち、学習に参加する姿勢で授業を参観しながら、授業者の働きかけや子供との関わりを俯瞰します。そして、授業で起きた事実を基に、その時の子供の実態の捉えについて授業者に聴いたり、自分と授業者の解釈に違いがあれば、その要因を明らかにするために聴きあったりすることを通じて、授業者の気づきを促し、全ての子供が主体的に学びに参加できる授業にするための糧とします。



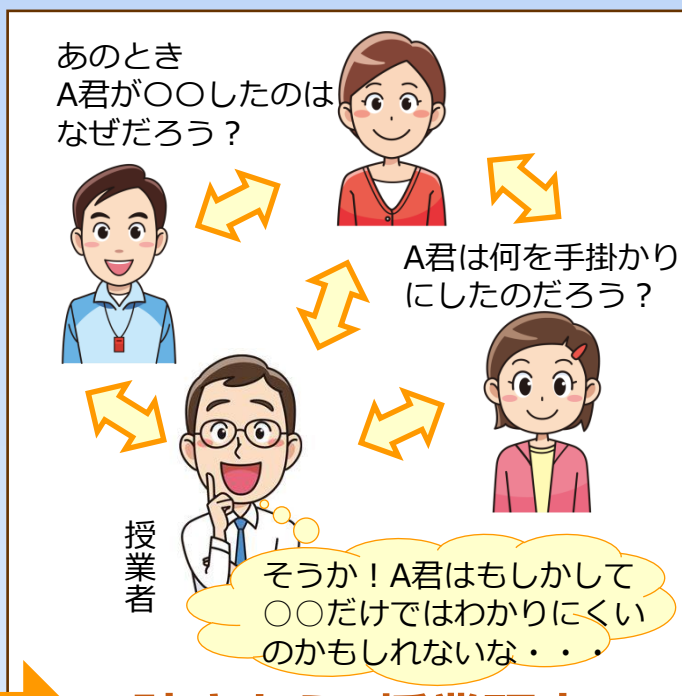
“教えあう”授業研究

転換

“聴きあう”授業研究

参観者の捉えや気づきを基にアドバイス
「支援方法」に焦点化した問題解決型

授業者の思いを大切に気づきを促す
「関わりを観る力」を高める問題発見型





同僚が学習に参加して、担任と一緒に
なって一人一人の子供の実態
を把握する機会

学びあい高め合う

授業者が、自らの働きかけの背景に
ある子供の捉え方を、対話を通じて
掘り下げる機会

「学びあいの場」のプロセス

①事前の解説

(ブリーフィング)

授業者の授業に臨む思い、現在の
悩みを記述し、同僚に伝えます。



②公開授業

同僚は、授業者の悩みを踏まえ
ながら、学習に参加して、子供
の姿や教師の働きかけを詳細に
観察します。



③振り返り

(授業リフレクション)

授業者は、公開授業を振り返り、
授業における不全感をもった働
きかけについて省察します。



④同僚の学びあい

(ラベル・コミュニケーション)

同僚は、授業での事実を基に気になった場面を出し合います。そして「なぜ、子供はこうしたのか」についてお互いの考えを聴きあいます。その際には、子供の目線で考えることに加えて、授業者と子供との関わりを俯瞰して考えます。このような自分達の捉えを踏まえたうえで、その中から、授業者に何をどのように聴くのかを相談します。

授業改善

「学びあいの場」での気づきを積み重ねることで、
それぞれが自分らしい働きかけを模索し続け、授
業改善に活かします。



⑥振り返り

(協同学習リフレクション)

授業者は、一連の学びあいを振り返り、悩みの原因
(糸口)について整理します。
一方、同僚は、各々の気づきや学びを言語化し、
これを互いに聴きあいます。



⑤授業者への聴きあい

(アクティブ・リスニング)

同僚は、気になった場面の子供の行動について授
業者の捉えを質問します。授業者は、自分なりの
考えを語ります。プロンプタは、授業者に寄り添
いつつ両者に聴き返ししながら、授業者自身に不全
の原因の気づきを促します。

